

デクセリアルズと株主の皆様をつなぐコミュニケーションマガジン

Dexerials Talk vol. 4

第5期 報告書 2016.4.1 - 2017.3.31

Value Matters

今までなかったものを。
世界の価値になるものを。

Contents

株主の皆様へ	01
特集 中期経営計画アップデート	03
シリーズ企画 デクセリアルズの主力製品 表面実装型ヒューズ編	05
TOPICS	06
デクセリアルズ・レビュー	07
対談 社外取締役から見たデクセリアルズ	09
会社概要・株式の状況・株主メモ	裏表紙

株主の皆様へ

2017年3月期を終えてのご挨拶

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2017年3月期(2016年4月1日～2017年3月31日)の事業概要についてご報告申し上げます。

代表取締役社長

一ノ瀬 隆



2017年3月期を振り返って

2017年3月期(以下当期)の当社グループの製品が関わる主要業界では、コンシューマーIT製品市場において、スマートフォン市場の成熟や、タブレットPCの需要減少が進行するなど、厳しい事業環境が継続しました。

このような経営環境の中、当社グループは中期経営計画の実現に向けて、既存製品の販売促進や栃木事業所の早期立ち上げなどに注力しました。この結果、既存製品としては、スマートフォン向けなどの光学弾性樹脂(SVR)は売上が減少したものの、ハイブリッドSVRや精密接合用樹脂は前期より増収となりました。異方性導電膜(ACF)はディスプレイ用途以外での競争が激化し、前期より減収となりました。一方、当期より成長ドライバーとして掲げた反射防止フィルムは大幅な増収となりました。

この結果、当期の売上高は円高の影響により62,598百万円(前期比0.1%減)となり、営業利益は円高の影響に加え、事業構造の最適化に伴う費用の計上などにより3,491百万円(前期比58.0%減)となりました。なお、円高の影響を除くと、売上高は前期比7.8%増、営業利益は前期比15.0%減となります。経常利益は、為替差損を計上したことなどにより2,893百万円(前期比64.6%減)となり、事業構造の最適化に伴う費用を特別損失に計上したことなどを加味すると、親会社株主に帰属する当期純利益は949百万円(前期比79.3%減)となりました。

中期経営計画の進捗と 2018年3月期に向けて

中期経営計画『変革と成長 2018』1年目の当期は、さらなる成長へ向けた「変革の断行」を

着実に遂行しました。これにより、2年目以降の業績向上の道筋をより鮮明にしたことに加え、変化に柔軟に対応できる社内体制作りなど、経営基盤の構築及び整備を強力に推進しました。

2年目となる2018年3月期は、中期経営計画の基本的な考え方並びに方向性に変更はありませんが、進捗状況や環境の変化、今後の見通しなどを踏まえ、現行計画におけるアクションプランの一部を変更しました。

詳しくは次ページの「中期経営計画『変革と成長 2018』アップデート」をご覧ください。

引き続き、中期経営計画の重点戦略や施策を着実に実施し、収益体質の確立と磐石な事業基盤の構築に取り組んでいきます。株主の皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

連結業績の概要

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
62,598百万円 (前期比 0.1% 減)	3,491百万円 (前期比 58.0% 減)	2,893百万円 (前期比 64.6% 減)	949百万円 (前期比 79.3% 減)

中期経営計画

『変革と成長 2018』

アップデート

当社は2016年4月に、3カ年の中期経営計画『変革と成長 2018』を策定しました。2年目の今期は、1年目の進捗と今後の見通しを踏まえて、基本方針を維持しつつ部分的なアップデートを行いました。そこで、計画の概要を振り返りつつ、アップデートの主なポイントをご説明します。

企業ビジョン
目指す企業像

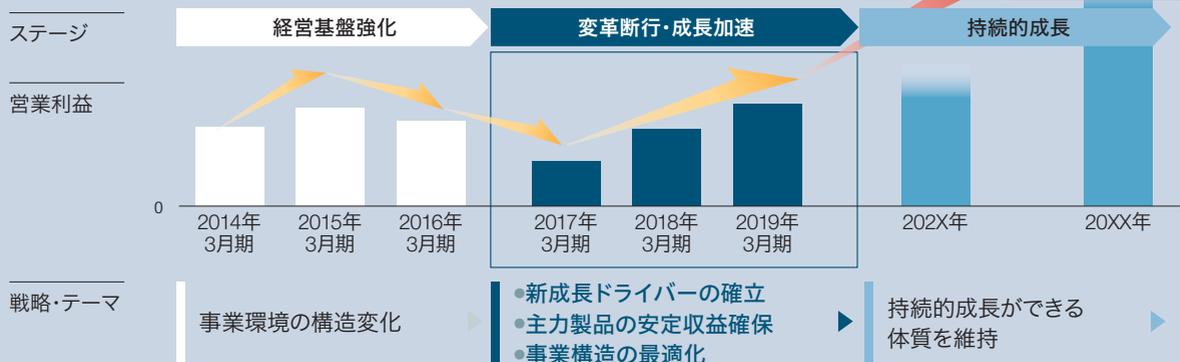
位置付け・
ゴール

Value Matters 今までなかったものを。世界の価値になるものを。

高付加価値製品の提供を通じて、人間社会と地球環境の豊かさと質の向上に貢献する企業

『持続的成長』ができる収益体質の確立を目指す

営業利益トレンド、成長ステージ&重要テーマ



アクションプラン

進捗状況

今後の見込み

成長戦略:新成長ドライバーの確立

1

光学フィルム:反射防止フィルムを第3の収益柱として育成

新事業領域の成長

旺盛な需要に対応して1年目は増産を前倒し、大幅増収達成

リソース配分を見直し

さらなる需要増加が見込まれ、追加増産投資実施

自動車領域に集中

競争戦略:主力製品の安定収益確保

2

異方性導電膜&光学樹脂材料:2年目以降の安定成長確保

タブレットPC需要減で光学弾性樹脂の成長鈍化

精密接合用樹脂の本格貢献

事業構造の最適化:機構改革の実施

3

組織改革とリソース配分の最適化

予定通り

事業進捗・環境変化に応じて今後も柔軟に対応

中期経営計画1年目を振り返って

当社は設立時からの企業ビジョン「Value Matters 今までなかったものを。世界の価値になるものを。」のもと、高付加価値の機能性材料の開発・提供を通じて、お客様と世の中に役立つ新たな価値を生み出す企業であることを常に目指しています。そして、2016年4月からの3年間で、事業環境の変化に対応しつつ、目指す企業像の実現に向けた「持続的成長」を可能にする収益基盤を確立するための期間と位置付け、中期経営計画を策定しました。

1年目を振り返ると、「成長戦略」の中でも光学フィルム事業(反射防止フィルム)は、旺盛な需要に加え生産設備の早期立ち上げにより、収益に大きく貢献しました。「競争戦略」では二つの主力製品での

安定収益確保を企図していましたが、光学弾性樹脂(SVR)がタブレットPC市場の低迷の影響を受け伸び悩みました。もう一つの異方性導電膜(ACF)はほぼ想定どおり進捗しています。

また、両戦略の効果を最大化するための「事業構造の最適化」の取り組みは、予定通り進捗しました。2年目の今期から効果が表れてくる見込みです。今後も、事業の進捗や環境の変化に柔軟に対応できる組織作りに継続して取り組んでいきます。

アップデートポイント PICK UP

目指す企業像へ向けて

3年間の設備投資額を当初の計画から増額して約230億円とし、「持続的成長」が可能な収益体質の確立に向け2年目以降も取り組んでいきます。また、事業環境の見通しなどを総合的に勘案し、最終年度の目標を、売上高650億円、営業利益は80億円*1と修正しました。当初の計画からは下回りますが、全体としては最終年度の調整後ROE*2目標は13.3%となり、エクイティ・スプレッド*3はプラスになります。

近年、経済状況や市場環境は激しく変動していますが、重点戦略や施策を迅速に実行し、収益の拡大を目指してまいります。皆様のご支援、ご鞭撻を、今後ともよろしくお願い申し上げます。

*1 為替前提 1米ドル=110円

*2 調整後ROE: (親会社株主に帰属する当期純利益+のれん償却額) ÷ 純資産 × 100

*3 エクイティ・スプレッド=調整後ROE-株主資本コスト(9%と仮定)

1 成長戦略のアップデート

光学フィルム(反射防止フィルム)を異方性導電膜(ACF)と光学弾性樹脂(SVR)に続く第3の収益の柱へと育てる取り組みは、当初の3ヵ年計画最終年の売上高目標に1年前倒しで到達する見通しです。当社の反射防止フィルムは、低反射性、防眩性、対擦傷性などに優れる点からノートPCや自動車のディスプレイに採用され、中長期的な需要増加も見込んでいます。中期経営計画2年目のアップデート点としては、売上高予想の引き上げ、また追加増産のための設備投資を実施します。

また、新領域での事業成長加速の取り組みは、領域ごとに成長の蓋然性を再検証しました。今後は自動車領域にリソースを集中し、確実に収益を確保したいと考えています。

光学フィルムカテゴリ売上高*



※取引条件の見直しの影響を除く

2 競争戦略のアップデート

光学弾性樹脂については引き続き車載や大画面向けなど新しい市場での安定収益確保に努め、また、光学樹脂材料カテゴリ内の精密接合用樹脂(SA: Smart precision Adhesive)に注力していきます。SAは従来から当社のラインナップに含まれている製品で、光学ピックアップ部品などの接合に使用されてきました。近年ではカメラモジュール接合の材料として需要が急拡大しており、今後供給拡大を図っていきます。

光学樹脂材料カテゴリ売上高



スマートフォンから 電動バイクまで バッテリーの過充電・過電流を 確実に遮断



リチウムイオン二次電池の 過充電・過電流を確実に遮断

今回ご紹介する当社製品は、表面実装型ヒューズです。リチウムイオン二次電池(以下「リチウムイオン電池」**用語解説**▶**リチウムイオン二次電池**)を過充電・過電流から保護するセルフコントロールプロテクター(SCP)、表面実装型の電流ヒューズとしてさまざまな電子機器に使えるパワーカレントプロテクター(PCP)を総称してこう呼んでいます。以下ではSCPを例に、仕組みや用途を紹介します。

リチウムイオン電池は、エネルギー密度が高いことや、有機溶媒など高温で引火しやすい物質を使用することから、発熱や発火などの事例が過去に起きています。それゆえ電池自体(電池セル)も安全を考慮して設計されていますが、さらに充電回路にも、過充電や過電流など事故に結びつくトラブルを

防ぐための制御機能を組み込んでいます。これを一次保護といい、リチウムイオン電池を使うバッテリーには必ず使用されていますが、安全性をより高めるために付加する二次保護の部品が、当社のSCPです(**用語解説**▶**一次保護・二次保護**)。

過充電・過電流を遮断する仕組み

SCPが電池を保護する仕組みは、過充電や過電流が発生すると、ヒューズを溶断して電池の回路を遮断するというものです。

電池の一次保護が正常にはたらいっている場合、電池容量の上限まで充電されると自動的に充電は停止します。この仕組みが機能なくなると、容量を超えても充電され続けることになり(過充電)、電池セル

内の電圧が上昇し続け、電池セル内部での化学反応の過度な進行やショートを誘発し、発熱や発火に至る場合があります。また、何らかの理由で電流が定格を超えて流れ続ける状態(過電流)でも同様の危険があります。

SCPは回路を監視しているICから過充電や過電流の信号を受け、回路を確実に遮断して発熱の進行を防ぎます。

試行錯誤で新発想の保護部品を開発、 採用機器も広がる

デクセリアルズは前身のソニーケミカルという名称のとおり、接着剤や樹脂など化学的特性を活かした材料に強みをもつ企業です。そのラインナップに電子部品のSCPが含まれていることは、不思議に



生産品目

- 反射防止フィルム
- 表面実装型ヒューズ

当社は栃木県下野市に栃木事業所を開設し、2017年5月26日に開所式を開催しました。

当社では、2016年度から始まる3か年の中期経営計画『変革と成長 2018』初年度において、国内事業所の集約を伴う事業構造最適化を実施しました。多賀城事業所(宮城県)の一部と根上事業所(石川県)、鹿沼事業所第3工場(栃木県)に分散していた開発及び生産の拠点を、新たに開設した栃木事業所に集約することで、効率的な運用を目指すとともに、開発リソースの集結によるシナジー効果の獲得を企図しています。

栃木事業所は敷地総面積約7万9千平方メートル、延床面積約7万2千平方メートルを有し、現在は反射防止フィルムと表面実装型ヒューズを生産しています。特に、需要が旺盛な反射防止フィルムは、増産に対応するための新しい生産設備で2016年10月に量産を開始しています。これにより、従来の鹿沼第1工場と併せて2拠点での量産体制を整えました。

栃木事業所は今後、研究・開発のあらゆる面で、世の中にない新しい価値の創造に取り組み、デクセルリアルズグループの継続的成長をリードしていきます。

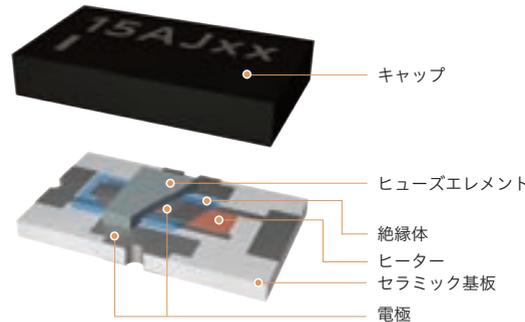
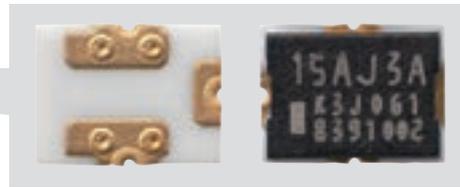
用語解説 リチウムイオン電池二次保護素子(SCP)とは？



リチウムイオン二次電池 二次電池は充電して繰り返し使う電池。対して、乾電池のような使い切りの電池が一次電池。

一次保護・二次保護 二次電池は、充放電を制御する回路設計がなされており、これを一次保護という。リチウムイオン電池の場合、代表的なものとしてはFET(Field Effect Transistorの略、電界効果トランジスタ)がある。FETは電流を制御する装置で、一定以上の電圧になる(充電が完了すると)、それ以上の充電を止める。

一次保護の機能がなんらかの理由で停止してしまった、いわば非常時に備えるのが二次保護である。二次保護機能の搭載は義務ではないが、たとえばノートPC用のリチウムイオンバッテリーパックは二次保護機能を搭載するよう業界が自主的に定めている。



思われるかもしれません。

リチウムイオン電池が日本で商用化された1990年代の初め、この新しい電池を安全に使うための保護部品の開発が当社に依頼されました。しかし、市場には当時主流だったニカド電池用の保護部品が既に存在し、特許で独占されていました。

通常ならばここで開発を諦めるところですが、試行錯誤の末、当時の開発チームは、ソニーケミカルが製品開発の過程で培ってきたプリント基板技術をヒントに、先行製品と発想を異にする新機能・新構造の保護素子であるSCPを開発したのです。成功の理由は、研究開発力の高さもありますが、何よりも、

顧客の要望に応えようという、技術者としての心意気でした。このSCPは基本特許も獲得し、その後の事業成長に貢献する製品となりました。

1994年の上市後、SCPの需要はリチウムイオン電池市場の拡大に伴って広がりました。ノートPCのバッテリーだけでなく、大型の電気製品、コードレス電動工具や蓄電池、電動アシスト自転車、電動バイク、電気自動車などのリチウムイオンバッテリーに使われています。また、小型バッテリー向けではタブレット、さらに2016年からは急速充電が可能なスマートフォン、医療機器のAEDなどにも採用機器が広がっています。

デクセリアルズ・レビュー

事業報告

当社グループの製品が関わる主要業界では、スマートフォン市場の成熟やタブレットPCの需要減少の進行など、当期も厳しい事業環境が継続しました。円高の影響もあり、当期の売上高は62,598百万円(前期比0.1%減)、営業利益は円高の影響に加え事業構造の最適化に伴う費用の計上などにより3,491百万円(同58.0%減)となりました。経常利益は、為替差損を計上したことなどにより、2,893百万円(同64.6%減)となりました。税金等調整前当期純利益は、事業構造の最適化に伴う費用などを特別損失として計上したことなどにより、1,713百万円(同77.5%減)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は949百万円(同79.3%減)となりました。

セグメント状況

光学材料部品事業

- 当事業の売上高は31,133百万円(前期比8.2%増)、営業利益は2,100百万円(同43.7%減)となりました。
- 光学フィルムは、ノートPC用ディスプレイ向け製品の

売上が取引条件の変更による影響もあって伸長し、増収となりました。

- 光学樹脂材料の売上高は、ハイブリッドSVRの売上が増加した一方、円高の影響、スマートフォン向けなどのSVRの売上の減少により、前期実績を下回りました。また、既存消費者IT機器向けの事業収束を進めた光学ソリューションも、前期実績を下回りました。

電子材料部品事業

- 売上高は31,676百万円(前期比7.0%減)、営業利益は3,189百万円(同50.0%減)となりました。
- 接合関連材料の売上高は、円高の影響により前期実績を下回りました。異方性導電膜も、円高の影響に加え、ディスプレイ以外の用途向け製品の競争激化により、減収となりました。
- 表面実装型ヒューズとマイクロデバイスの売上高は前期実績を上回りました。前者はスマートフォン向け製品、後者はプロジェクター向け無機偏光板などの無機材料の販売が好調でした。

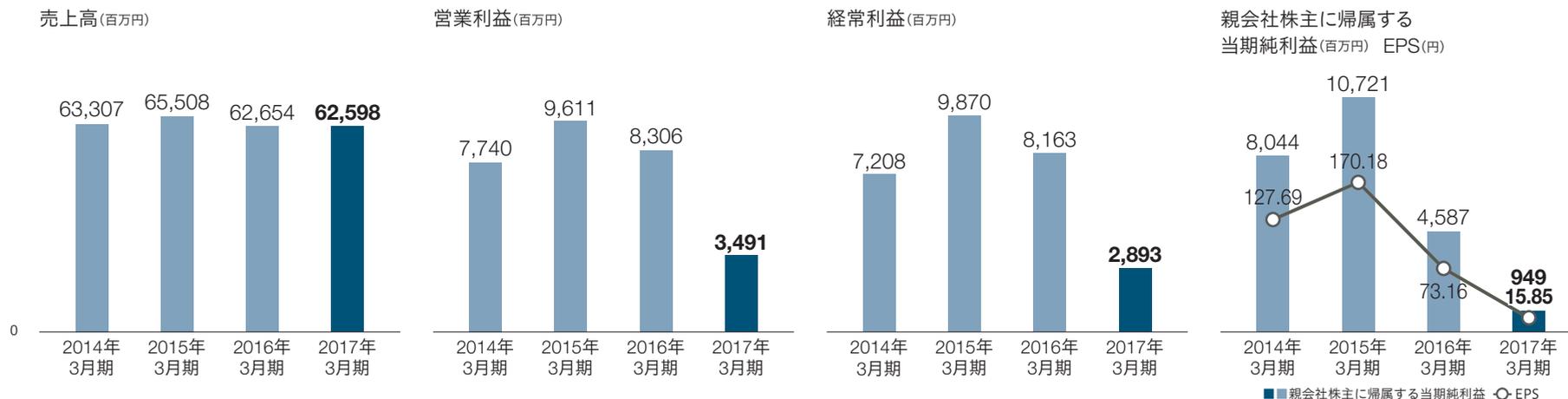
今後の見通し

次期(2018年3月期)の業績は、消費者IT製品市場の力強い伸びは見込みづらく、当社を取り巻く事業環境は厳しい状況が続くものと思われます。

次期の業績見通しについては、追加増産投資を実施する反射防止フィルムの大幅な収益拡大や、事業構造の最適化の効果発現などを見込んでいることから、増収増益の見通しとしています。なお、配当につきましては、のれん償却前連結当期純利益に対する総還元性向40%程度とする従来の基本方針に変更はありませんが、成長戦略のための大幅な設備投資を実施するため、次期の年間配当金は1株当たり40円を予定しています。

中期経営計画『変革と成長 2018』の2年目として、反射防止フィルムへの成長投資による成長戦略の加速、既存領域での安定収益確保、新領域開拓として自動車領域への集中、などの戦略を着実に実行に移していきます。

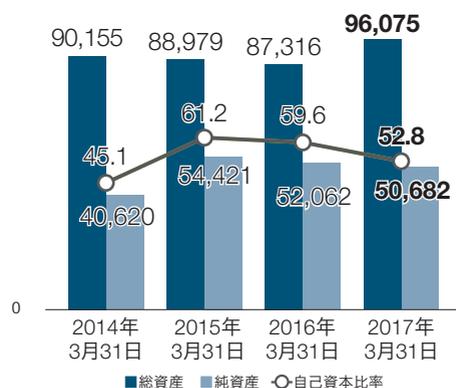
連結財務ハイライト



連結業績および財務データ

		2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
売上高	(百万円)	63,307	65,508	62,654	62,598
営業利益	(百万円)	7,740	9,611	8,306	3,491
経常利益	(百万円)	7,208	9,870	8,163	2,893
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	8,044	10,721	4,587	949
純資産額	(百万円)	40,620	54,421	52,062	50,682
総資産額	(百万円)	90,155	88,979	87,316	96,075
1株当たり純資産額	(円)	644.76	863.82	868.96	843.56
1株当たり当期純利益	(円)	127.69	170.18	73.16	15.85
自己資本比率	(%)	45.1	61.2	59.6	52.8
自己資本当期純利益(ROE)	(%)	21.9	22.6	8.6	1.8
有利子負債	(百万円)	27,000	15,500	15,500	20,000
D/Eレシオ	(%)	66.5	28.5	29.8	39.5
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	10,429	13,338	12,115	5,128
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 3,074	△ 2,714	△ 6,537	△ 5,448
フリー・キャッシュ・フロー	(百万円)	7,355	10,623	5,577	△ 320
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 6,006	△ 11,519	△ 4,988	760
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	15,776	16,456	16,259	16,432

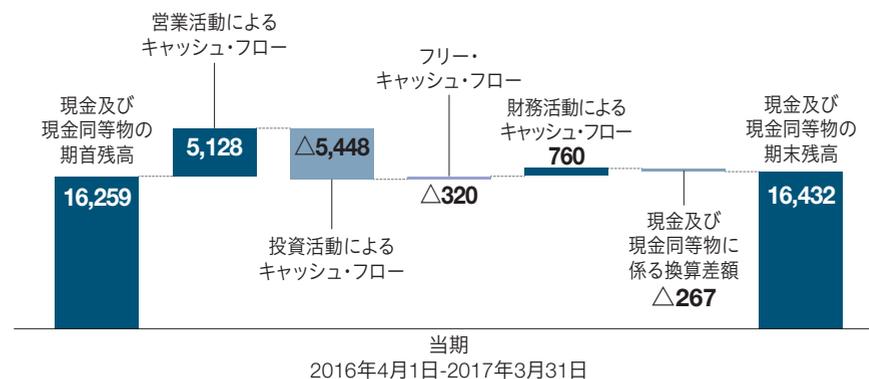
総資産(百万円) 純資産(百万円)
自己資本比率(%)



有利子負債(百万円)
D/Eレシオ(%)



キャッシュ・フロー(百万円)



対談

社外取締役から見た デクセリアルズ

代表取締役社長の一ノ瀬隆が
社外取締役の高松和子に、
「経営とダイバーシティ」について
ご意見を伺いました。

社外取締役
高松 和子

代表取締役社長
一ノ瀬 隆

一ノ瀬 はじめに、当社の社外取締役を2年間務められたご感想をお聞かせいただけますか？

高松 まず感じたのは、まじめで誠実な会社であるということですね。将来性のある素材産業に取締役として関わらせていただき、やりがいと同時に責任も強く感じています。

一ノ瀬 高松さんは、労働環境の整備としてダイバーシティ推進やハラスメント防止などさまざまな啓発・支援活動を行っている公益財団法人21世紀職業財団の業務執行理事・事務局長で、当社でも女性社員や管理職向けに講演していただきました。その復習になりますが、なぜ営利を追求する企業がダイバーシティ（多様性）を重視すべきなのでしょう。社内が一つの意見でまとまって動いた方が効率が良いのではないか、という意見もありますが。

高松 高度成長期は、上意下達でモノカルチャーな組織の方が効率が良かったことは事実です。でも今はネットワーク時代。情報は瞬時に世界中に拡散し、人や

物もグローバルに交流します。社会の変化のスピードも年々速まっています。その中で、ワンパターンでは変化に対応しきれません。多様な人の多様な意見の中からこそ最適解を見つけることができるのです。

日本ではあうんの呼吸が大事にされますが、多様性のある環境では、それは通じません。仕事を進める際、すべて説明することが基本です。何のためにするのか、成果はどこでどう使うのか、スピード感や完成度はどの程度必要か、きちんと理解して仕事に取り組み、効率的で生産性も成果も上がります。

また、女性や外国人など幅広く人材を求めたほうが、優秀な人材を確保することができます。さらに、社内にいる人たちが本来の力を十分に発揮できていなければ企業にとっても損失です。

一ノ瀬 ダイバーシティという女性の活躍推進と言われますが、色々迷うこともあります。当社は、柔軟な働き方を実現する制度は充実していると自負しています。例えば、職種による例外はありますがフレックス

タイム制を導入していますし、育児や介護休暇なども整備しています。男性の育児休職取得実績もあり、制度が利用しにくいという雰囲気でもない。働きやすさでは負けていないと思いますが、女性の管理職は少ない。活躍してもらうには何が足りないのでしょうか。

高松 確かに当社は働きやすいと思います。実際、女性の平均勤続年数が男性より長いですね。それでも女性の管理職が少ないのは、戦力として育成してこなかったからです。社会全体の意識がそうだったように、女性はいずれ結婚・出産で辞めると思い、重要な仕事を任せられていなかったのです。女性も出産後、仕事は続けられても男性並みに働くのは難しいので、最初から仕事を制限してしまいがちでした。それでは、経験やスキルが不足してしまうので、昇格は難しいでしょう。

今後は、女性にも積極的にさまざまな経験を積み、しっかり育成する必要があります。

その時に障害になるのが男性の「ナイト精神」です。女性を守る気持ちで女性には厳しい仕事をさせないの

です。仕事経験が人材育成の基本です。女性にも難しい仕事や厳しい業務も任せ、失敗も経験させ、育成する必要があります。余計な配慮をせず、男性同様に戦力として鍛えるのです。女性も、男性に甘えずにしっかりとキャリアを築く姿勢が求められます。

さらに、男性の働き方も問題です。毎日遅くまで残業し、休日出勤も出張もいとわない働き方を変える必要があります。男女ともに効率よく働いて早く帰り、家事・育児を夫婦で分担するようにならなければ、本当の意味で女性が活躍できる環境にはなりません。

一ノ瀬 多様性は性別、年齢、国籍など、さまざまですね。当社でも国内外の事業所でいろいろな国籍の社員が働いています。まずはそういう属性が壁となって活躍や昇進を諦めてしまう環境をなくすことが第一ですが、その先に、一人ひとりの異なる能力や経験、個性を発揮して会社に力を与えてほしい。それが最終目標です。そのためにどんなことに気を配るとよいでしょうか。

高松 要は、属性に囚われることなく、「人はみな違う」ことを前提に、その人の能力を十分に発揮できるようにすることです。そのためには、全員が同じ様に働くのは無理があります。一人ひとりを個別に見て、その人に合った業務や働き方で力を発揮してもらうのです。これまでの日本の雇用形態や企業の考え方を大きく変えることになると思います。どうしたら変革できるか、まだまだ試行錯誤が必要ですね。

一ノ瀬 多様な視点を活かすという考え方は、世の中にまだ無い価値を創造していく、「Value matters」という当社の企業ビジョンとも合致します。社員が柔軟な思考で自発的に課題を解き明かし、顧客や社会のニーズに貢献する新しい価値を提供する。働きやすい風土を整えて、社員が能力を発揮して会社が成長する好循環づくり、グループとして成長していきたいと考えています。

役員

(2017年6月23日現在)

取締役(社内)



代表取締役
安藤 尚

代表取締役社長
一ノ瀬 隆

取締役
永瀬 悟

取締役(社外)



平野 正雄 藤田 浩司 横倉 隆 高松 和子

監査役(社外)



常勤監査役 佐竹 俊哉
監査役 高田 敏文
監査役 佐藤 りか

※当社は、社外取締役および社外監査役全員を、東京証券取引所が定める一般株主と利益相反関係が生じるおそれがない独立役員として指定し、同取引所に届け出しています。

会社概要 / 株式の状況 (2017年3月31日現在)

会社概要

商号 デクセリアルズ株式会社
(英文名:Dexerials Corporation)
設立 2012年6月20日
資本金 15,830百万円
本社所在地 東京都品川区大崎一丁目11番2号
従業員数 2,124名(連結)

取締役・監査役

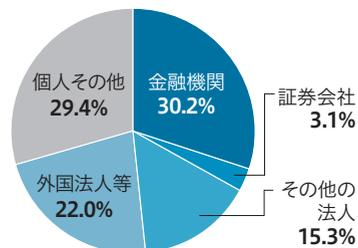
代表取締役社長	一ノ瀬 隆	取締役*	横倉 隆
代表取締役	安藤 尚	取締役*	高松 和子
取締役	永瀬 悟	常勤監査役*	佐竹 俊哉
取締役*	平野 正雄	監査役*	高田 敏文
取締役*	藤田 浩司	監査役*	佐藤 りか

*会社法に定める社外取締役、社外監査役

株式の状況

発行可能株式総数 100,000,000株
発行済株式の総数 63,299,500株
株主数 27,644名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社日本政策投資銀行	5,525,900	8.72
積水化学工業株式会社	5,040,000	7.96
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	3,218,900	5.08
大日本印刷株式会社	3,125,000	4.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,930,100	4.62
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,987,500	3.13
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	1,308,037	2.06
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	1,014,744	1.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,007,600	1.59
STATE STREET BANK CLIENT OMNIBUS OM04	983,271	1.55

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
期末配当金受領株主確定日 3月31日
中間配当金受領株主確定日 9月30日
1単元の株式数 100株
証券コード 4980
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内1-4-5
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
連絡先・郵便物送付先 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-232-711(通話料無料)
ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
手続きに関するご案内 住所・氏名の変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定などの手続きは、口座を開設されている証券会社へご連絡ください。
相続などによる株式所有者の変更は、株主名簿管理人および口座をお持ちの証券会社にご連絡ください。
公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL <http://www.dexerials.jp>

株式に関する手続きのご案内

お取扱窓口 支払明細の発行、未払配当金のお支払い等については、以下の連絡先にお問い合わせください。
お問い合わせ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-232-711(通話料無料)
(土日祝祭日等を除く平日9:00~17:00)
上記電話番号をご利用いただけない場合 03-6701-5000(通話料有料)

定時株主総会に関するご報告

2017年6月23日開催の当社「第5期定時株主総会」の決議の結果につきましては、インターネット上の当社のウェブサイト(<http://www.dexerials.jp>)に掲載しておりますのでご覧くださいませようお願い申し上げます。

同封の株主アンケートにご協力をお願いいたします。

株主の皆様のお声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

●ご回答〆切 2017年7月末

デクセリアルズ 株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー8F
TEL (03)5435-3941

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



環境に配慮した植物油インキを使用しています。